

1 研究テーマ 主体的に学習に取り組む生徒の育成をめざして
～特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の工夫～

2 はじめに

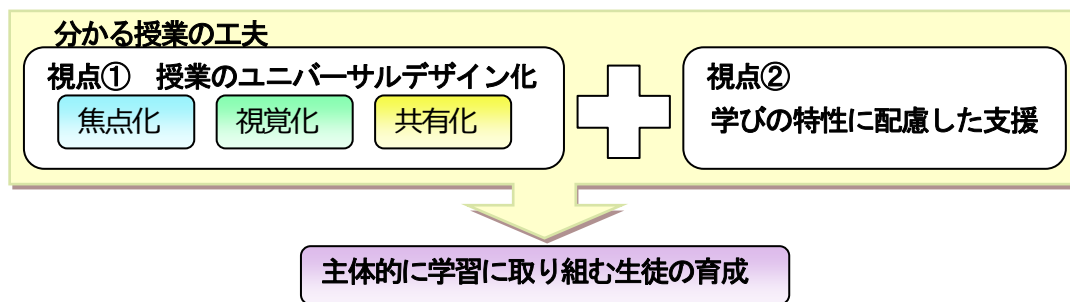
学習に意欲的に取り組み、自分の意見をまとめて書いたり述べたりできる生徒がいる一方で、学習意欲や学習内容の定着に差があることなどが課題として挙げられる。しかし、スモールステップによる指示や、写真や実物を提示した説明、個別の指導を行うことにより活動が促される生徒の姿が見られる。そこで、ユニバーサルデザインの考え方で授業づくりを行うことにより、生徒個々の特性に応じた多様性のある指導・支援ができ、学習意欲の低下の予防や、主体的な学習の推進ができるのではないかと考えた。

3 研究目的

生徒一人一人に学び方の違いがあると捉え、特別支援教育の視点を大切にして授業改善を図り、学習指導を行うことで、自ら考え判断し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図りたいと考え研究のテーマを設定した。

4 研究内容

(1) 研究の視点



(2) 実態把握と分析（「学級サポートプランⅠ」独立行政法人特別支援教育総合研究所）

○実態把握・教科の学習に影響が大きいと思われる項目 50 項目についてチェックし、学級や個人の学びの特性を把握する。

子どもの行動観察から、授業場面での具体的なつまづきや子どもの課題をつかむ。

わかりやすい授業づくりに関する 12 区分 36 項目を自己チェックし、指導傾向をつかむ。

○分析・実態把握の結果から、学級全体・気になる子どもへの支援の手立について検討する。

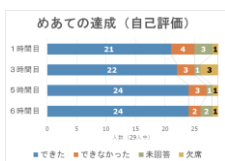
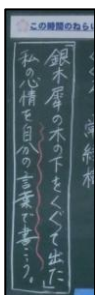
(3) 検証授業での具体的な取り組み

【視点①】授業のユニバーサルデザイン化

焦点化

授業のねらいや活動を絞り、授業構成をシンプル化すること

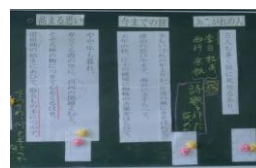
めあてを学習活動の形で明示
授業の最後に振り返り



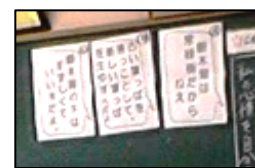
その時間の学習内容が明確に
分かり、目標を
持って取り組む
ことができる。

指導内容を1つに絞
ることで、思考の流れが
つながり、
意見を組み立てやすくなる。

場面や表現を短く限定して提示



〈教科書本文を分割して提示〉



〈セリフだけ提示〉

場面が限定されるため、ねらいとする表現に着
目しやすくなり、文章の内容に沿って思考するこ
とができる。

視覚化

視覚的な手がかりを効果的に活用し、考えることを支援すること

目に見えないイメージや抽象的な内容を視覚化



場面の状況や、象徴が表すもの等、想像しづらい内容を図示したイラストを提示することで、イメージが具体的にになり、文章の内容の理解が進む。

場面の状況や、象徴が表すもの等、想像しづらい内容を図示したイラストを提示することで、イメージが具体的にになり、文章の内容の理解が進む。

思考の流れが確認できる板書



登場人物の心情の変化を表にまとめる等、文章の展開が視覚的に捉えられる板書の工夫によって、生徒の思考が整理され、板書を見ながら読みを深めることができる。

登場人物の心情の変化を表にまとめる等、文章の展開が視覚的に捉えられる板書の工夫によって、生徒の思考が整理され、板書を見ながら読みを深めることができる。

板書とワークシートの連動指示や発問を視覚的に提示



板書の形式をワークシートと揃えることで、説明したことがすぐに自分のワークシートでも確認でき、記入したり、課題を解いたりしやすい。また、指示を板書でも示すことで、今取り組んでいる活動の確認がしやすく、取り組みやすい。

板書の形式をワークシートと揃えることで、説明したことがすぐに自分のワークシートでも確認でき、記入したり、課題を解いたりしやすい。また、指示を板書でも示すことで、今取り組んでいる活動の確認がしやすく、取り組みやすい。

共有化

一人の考えのよさが他の子たちに分かち合って伝わるようにすること

全体で意見の共有

多様な意見を聞くことで、見方・考え方が広がり、理解が深まる。

ペア・グループ活動

- ・話し合いの仕方
- ・明確な課題設定
- ・役割を持たせた活動

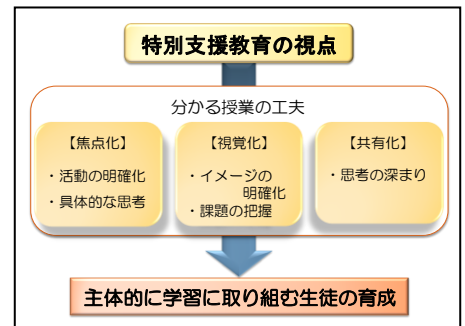
自分の意見を説明したり、その場で友達に質問したりと、課題解決に向け、意欲的に取り組むことができる。

【視点②】学びの特性に配慮した支援

読みの困難に対応する「ふりがな付きワークシート」、覚えることの困難に対応する「歴史的仮名遣いの一覧表」、手で操作することで思考が整理できる「人物関係カード」など、活動に取り組む上での障壁となるものを取り除くことで、中心となる学習活動に取り組みさせることができる。

5 研究のまとめ

- ・授業のねらいを1つに絞ることで、その時間内に取り組む活動が明確になり、生徒は目標をもって学習に取り組むことができる。
- ・文章をまとまりごとに分割したり、言葉や場面を限定したりと、情報を限定して提示することで、生徒自身の気づきを促し、思考が組み立てやすくなる。
- ・写真やイラストを効果的に取り入れることで、言葉だけでは想像しにくい内容や曖昧なイメージが明確になって理解が促され、学習のねらいに沿って自ら判断し思考することにつながる。
- ・ペア・グループ活動など意見を共有する場をもつことで、自分の考えを述べたり質問したりしながら課題について考えることができ、主体的に取り組むことができる。



6 今後の課題

- ・教科の指導内容を明確に把握した上で焦点化を行い、発展的な内容も扱いながら全ての生徒がより学びたいような授業展開を工夫したい。
- ・内容理解のため視覚資料を効果的に取り入れると共に、言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図りたい。
- ・主体的な学びにするため、グループの中での役割を持たせ、話し合いの視点を明確に提示するなどグループ活動の質を上げる工夫を行いたい。

7 おわりに

今後も、特別支援教育の視点を取り入れることで、生徒の主体的な学びを引き出し、思考力・判断力・表現力を伸ばしていける授業展開の工夫を行っていきたい。